

第8回 沖縄の食を取り上げた漫画

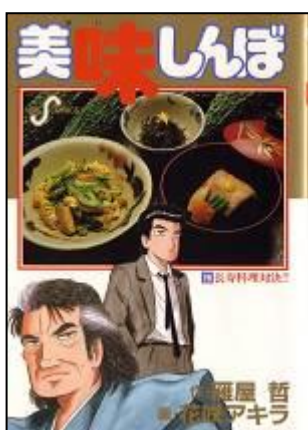


健康、長寿との関連で注目を集める沖縄の食。

もちろん注目をひくのは、それだけが理由ではないのですが、マンガの世界でも数多くの作品で沖縄の食文化が紹介されています。

この分野は多彩な作品がそろっていて、これから紹介する作品以外でも沖縄を舞台に設定すると食の話題がたいいて取り上げられます。

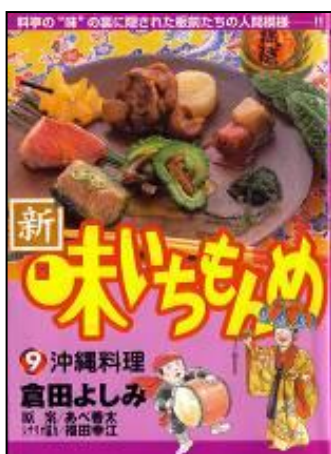
なお、今回は泡盛などの酒類は除外し、テーマとして沖縄の食を取り上げたものをお届けします。



最もよく知られているのは、こちらの「**美味しんぼ 第28巻長寿料理対決**」(作/雁屋哲 画/花咲アキラ 小学館刊)です。

かれこれ 20 年近く前に沖縄の食にスポットライトをあてたことで、たいへん大きな注目を集めました。

以後、マスコミで沖縄の食を様々な側面から取り上げることが多くなり、それに比例して様々な沖縄の食材や料理がマンガの中で紹介されるようになりました。内容は、あまりにも有名なので省略。



「**新・味いちもんめ**」第9巻 (作/あべ善太 画/倉田よしみ シナリオ協力/福田幸江 小学館刊)

日本料理店「SAKURA」を舞台に繰広げられる料亭の味と板前たちの人間模様。伝統料理の研修旅行で沖縄を訪れた「SAKURA」一行。公設市場の見学、宮廷料理、辻料理の試食と……。

漫画・コミックスで見る沖縄

「大使閣下の料理人」第11巻（原作／西村ミツル 作画／かわすみひろし）

ベトナム大使館で働くフランス料理のコック大沢公の活躍を描く。元ベトナム大統領とともに沖縄へ行くこととなった大沢。那覇市内で沖縄料理を堪能する。12巻はタコライス。



続いて紹介するのは、「口福のひと」第1巻（原作/日出山みなみ 脚本/寺島優 漫画/あおきてつお 集英社刊）です。

「口福は幸福の元」がモットーの美野川愛は、農水省のキャリアウーマン。21世紀の日本人の食卓と健康を支える日本の伝統食を探すプロジェクトに、愛が第1号として推薦したのは、沖縄の長寿食。これは、美食ではなく、食育教育の漫画だぞ。



伝統の料理だけではありません。次に紹介するのは、「ラーメン発見伝」第17巻（作/久部緑郎 画/河合単 小学館刊）

ラーメン不毛の地といわれる沖縄へ。新しいラーメン発見めざして沖縄の地を訪れた一行は、公設市場など那覇市内を見てまわることに……。

沖縄そばを基準に新しいラーメンを考える藤本と篠崎。18巻まで続く？



こんな短編作品もあるぞ～。

「ミジガーキ」（原作/田中誠一 作画/秋月めぐる 「食漫」大阪書籍刊 収録）

減量で苦しんだ元ボクサーが経営する沖縄料理店。訪れた料理評論家は、出された料理を痛烈に批判する。

しかし、再度出された沖縄ソバを食べた評論家は、その味に愕然とする……。



生まれ育った故郷の水は、味覚を左右する？

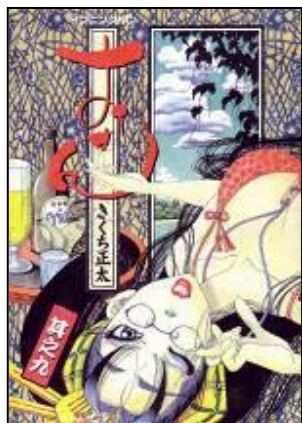


以前紹介した「クッキングパパ」で、沖縄料理を取り上げたのは、**第 60 巻（うえやまとち 講談社刊）**が最初（本当か？）です。

沖縄の塩を求めて栗国島までやってきた荒岩と田中。しかし、商談は断られる。元気をつけてと出された料理は、素朴な沖縄の具たくさんミソ汁でした。

以後、息子が沖縄の大学に進学して、さらに沖縄の食が取り上げられるようになります。

まだまだあります。



「おせん」**第 9 巻（きくち正太 講談社刊）**

老舗料理屋「一升庵」の女将おせんの活躍を描く。石垣島を訪れた「一升庵」の一行。

東京の大手高級食材会社の接待のため、協力することに……。ビールから数々の沖縄料理に至るまで、その評価は？

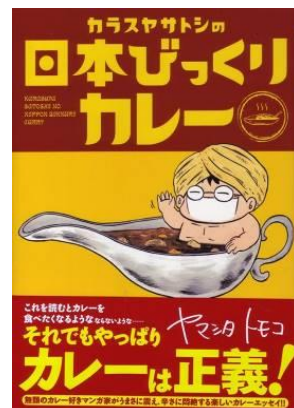


「おかわり飯蔵」**第 3 巻（原作/魚柄仁之助 作画/大谷じろう 小学館刊）**

沖縄へ出かけた予備校生のシゲ。そこで知り合った女の子に一目ぼれ。そのシゲさんを励まそうと飯蔵は、沖縄風の豚足入りおでんをつくる。

次は、カレーに関するコミックが 2 冊。

「カラスヤサトシの日本びっくりカレー」（カラスヤサトシ/著 新書館刊）



漫画・コミックスで見る沖縄

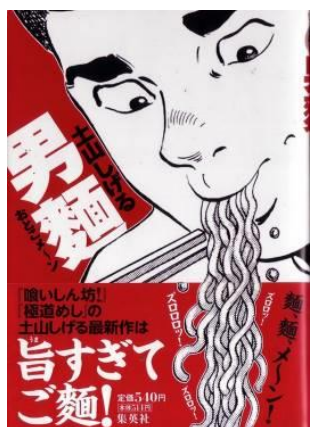
日本全国のレトルトカレーの試食による比較。沖縄代表は、美崎牛カレーとマンゴーカレー、タコライスカレー、カレーになりたいトウガンくん、ピンザカレー。いろいろあります。



「華麗なる食卓」第20巻(ふなつ一輝/著 集英社刊)

カレー料理のまんが。ゴーヤーを使ったサグ風ゴーヤチキンカレーが登場。なお、主人公とゴーヤー対決するのは、沖縄 琉球庵の嘉手納姉妹です。

第26巻、37巻も関連してきます。



「男麺」(土山しげる/著 ホーム社刊)

「三杯目 盛岡冷麺&沖縄そば」

麺好きの商社営業マン・池田免太郎。

若手漫才コンビのお粗末な麺をテーマにしたネタを聞いて、麺の違いや特徴を教えるために、盛岡冷麺と沖縄そばをおごることに…



「うんちくラーメン」(河合 単/著 KADOKAWA刊)

どこからともなく現れてはラーメンに関する雑知識を披露して去っていくトレンチコートの男・雲竹雄三。

第5話と第6話で沖縄そばについての紹介がある。

「虹色ラーメン」第3巻(馬場民雄/著 秋田書店刊)

日本一のラーメン職人をめざす少年・榊太陽。彼を中心としたラーメン部の一行は、



沖縄で新しいラーメンを創ろうとしている職人と出会う。果たして新しい沖縄ラーメンは完成するか？



めずらしいところで、こういうのもあります。

「自然流琉球唐手継承者伝説 スシ王子! 劇画版」(玉越博幸/著 講談社)

天才寿司少年「スシ王子」と呼ばれた米寿司(まいず つかさ)は、祖父と父をカジキマグロ漁によって亡くし、トラウマを負った。しかし、宮古島の自然流琉球唐手の師・リリーの武術指導によってトラウマを克服、寿司勝負?を続けて銀座「一柳」の刺客たちと対決していく? というストーリー。

25話も詰め込まれてるんだけど、堂本光一主演「スシ王子」と関係があるらしくて、意外と知られてるのかな？

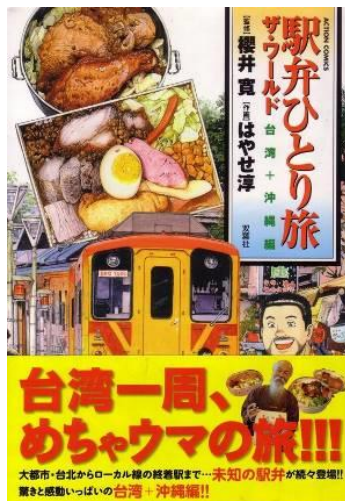


「食の鉄人たち ~秋の陣バトル対決!! 料理コミック第6弾!!~」(双葉社刊)には、

2本の沖縄の食に関する小編が掲載されています。

①「ラーメンー直線 沖縄そば vs とんこつラーメン対決」(作/綾狩優 画/桂田健治)と

②「心をつなぐ沖縄料理 絶品のラフテー料理」(原案/幸加木綾 画/根本哲也)。



沖縄にもあるの? って思ったのがこちら。

「駅弁ひとり旅 ザ・ワールド台湾+沖縄編」

(監修/櫻井寛 作画/はやせ淳 双葉社刊)

第2話で紹介されていたのは、ゆいレール壺川駅の海人がつくる壺川駅前弁当でした。



「奇食ハンター」第4巻(山本マサユキ/著 講談社刊)

日本全国の奇妙な食を紹介してまわる短編まんが。沖縄から日帰りで帰ったハンターたちのお土産は、「ハブの毒まんじゅう」。6個のうち1個は、島とうがらし入という恐怖のロシアンルーレットまんじゅうだった……。

本書は2009年の刊行だが、今も売っているのだろうか？



「喰いタン」第16巻(寺沢大介/著 講談社刊)

本作は、「喰いタン」の通り名を持つ探偵・高野聖也が、食に関する知識と鋭い味覚を駆使して事件を解決していくというもの。

事件 File. 112 では、「沖縄料理を喰いまくる!!」となっていて、様々な沖縄料理が登場する。



「江戸前鮫職人きららの仕事 ワールドバトル」第5巻(原作/早川光 漫画/橋本孤蔵 集英社刊)

江戸前鮫職人の申し子・海堂きらら。ワールドスシバトル日本予選1回戦第5試合で激突する王者・坂巻慶太と天才・神原朱雀。

その2つ目のテーマ「牛肉」で、慶太が使うのは、なんと石垣牛だ。とても石垣牛をほめているので、ぜひ一読を。



「オーバー自慢の爆弾鍋 VOL. 1」(画/こせきこうじ 作/天願大介 原案/BEGIN 企画/高津祥一郎 実業之日本社刊)

食堂「じまんや」の高良カマドの自慢は、不発弾から作った爆弾鍋。パワフルオーバーとその家族が織り成す沖縄テイストあふれるストーリー。

本作の原案は BEGIN で、この VOL. 1 以降も連載が続いていたが、コミックスになっていないが惜しまれる。



其の五 僕のオーバーと爆弾鍋(前後編)「戦争めし」第9巻(魚乃目三太/著 秋田書店刊)収録

ビギンのメンバー・知念等さんが語った戦時中の話の漫画化。内容は上記同名の漫画参照。

「県民ごはん作ってみました」2巻(もぐら/著 大和出版刊)

第1巻では、サーターアンダギー、第2巻では、人参しりしりを紹介している。



「茶柱倶楽部」第6巻(青木幸子/著 芳文社刊)

台湾から来た友人・桃花と二人で沖縄を旅する主人公・鈴。最初に訪れたのは新原の海岸。琉装体験などガイドを引き受け世話してくれる上間さんは、地元の流通関係の仕事をしていて、旦那はもう何年も帰ってきていなかった。

ブクブク茶が取り上げられています。



「髪を切りに来ました」全5巻(高橋しん/著 白泉社刊)

沖縄の離島・ハルタ島にやってきた父子の日常生活を描く漫画。

シリーズ全編に渡って、お父さんが息子のために作る、沖縄の食材を使った料理の数々もこの漫画の魅力。私は、この漫画は沖縄版「北の国から」みたいな傑作だと思う。

多くの方によんで欲しい傑作。



「ときめきごはん」No.39(少年画報社刊)

「思い出食堂」特別編集の第9巻。

副題に「沖縄そばとタコライス」とあるが、それ以外にもソーミンチャンプルー、海ぶどう、ゴーヤーチャンプルー、ラフテー丼を紹介した短編が収録されている。

締めくくりは、外国人の目を見た沖縄の食のレポートの漫画版を紹介して終わりとします。



「コミック版 英国一家日本を食べる WEST(西日本編)」(作画/落合マハル 原作/マイケル・ブース 亜紀書房刊)

英国人家族の日本での食を巡る旅をつづった本のマンガ版です。

本作の第12話で那覇、第13話で大宜味村を訪れています。特に大宜味村では長寿食を取り上げています。

マンガだとボリュームがなくて読み足りないかもしれないので、原著を読むことを勧めた方がいいのかもしれない。



「北欧女子オーサのニッポン再発見ローカル旅」(オーサ・イエークストロム/著 KADOKAWA 刊)

スウェーデン出身のマンガ家・オーサ・イエークストロムが、住んでいる東京を離れ、沖縄、京都、南東北、広島、福岡を訪れる。沖縄のコンビニでの体験などがちょっぴり語られている。

外国人目線で綴られる異文化体験がおもしろい。

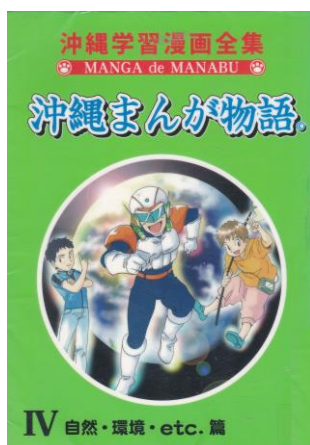
担当/量産工房

追記 郷土資料関連図書



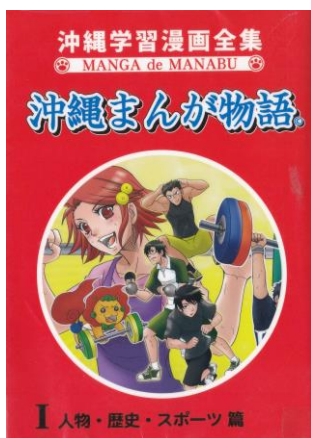
「酔った食った! 沖縄裏道 NOW!」(犬養ヒロ, 猫拾ブミ, はるやまひろぶみ/著 双葉社刊)

様々な理由でなくなってしまうかもしれない個性的な沖縄の店、人、文化を体験して漫画や写真等で紹介している。



「沖縄まんが物語 Ⅳ 自然・環境・etc. 編」(インターフェース刊)

同書に収録されている「沖縄お気軽グルメおきグル〈沖縄お気軽グルメ旅紹介〉」では、タコライス、中味汁、ゆしどーふ、サーターアンダギー、沖縄てんぷら、イカスミ、ポーク玉子、バクダン、のまんじゅう、ひらやーちー、かちやーゆー、ちゃんぽん、沖縄そばが軽く紹介されている。



「沖繩まんが物語 I 人物・歴史・スポーツ編」
(インターフェース刊)収録の「What a
Wonderful Sweets Memory (沖繩菓子の歴史)」
も食関連。



「まんぷく沖縄 ~ご当地グルメコミックエッセイ~」(てらいまき/著 KADOKAWA 刊)

沖縄県内各地の知られざる名店の名物料理を
紹介しているグルメ漫画。

食の観光ガイドとしては、最高の部類に属す
るかもしれない。



「旅ボン 沖縄編」(ボンボヤージュ/著 主婦
と生活社刊)

旅行日記漫画。那覇、波照間島、与那国島、石
垣島、竹富島、西表島を巡って観光地やそこで食
べた食についてのレポが漫画で紹介されている。

「沖縄スタイル ~異国を知る・見る・食べる・遊
ぶ~」(天空企画/編 光文社刊)



同文庫本の中には、「沖縄スタイルな一日」と
いう章があり、④「ビーチパーティーin 沖縄」
(保里安則/作)というエッセイ
風なショート漫画作品(下記)が
掲載されている。



この他、嘉手納町では、「食育まんが ～沖縄料理で考える食育～」を制作してHPで公開しています。現在 11 冊まで公開されていますので、ご確認ください。

追記2 おまけ



「戦国小町苦勞譚」第8巻(夾竹桃・平沢下戸/原作 沢田一/漫画 アース・スターエンターテイメント刊)

戦国時代にタイムスリップした歴女で農業高校生の綾小路静子が、織田信長の庇護のもと、様々な改革を行って天下統一を応援していくという物語。

この巻では、同じくタイムスリップした畜産責任者・みつおが、琉球からアグー豚を持ち帰ってくる。

当時、本土には豚はいなかったらしい。食というよりも食材ということで取り上げておきます。

沖縄の食を取り上げた漫画はショートまんがやエッセイコミック等で最近急増していて、収集(もう、あきらめつつある)把握に苦労しています。

なので、紹介したもの以外にもまだまだたくさんあることをお断りしておきます。